

あぢさゐの花 札幌 魚住あらた  
 つましくもつくづくたりきありありと白妙の花沈丁しのぶの統むら  
 春を呼ぶ香のよしをつくづくと沈丁の花桜はな々のみち  
 春一番すぎ待ちあしさつき晴れ沈丁の花白妙の花  
 うつつなき春のころよけふをしも沈丁の花に香りをし想ふ  
 わが足は曳くこともなくつくづくとかたはみの花あぢさゐの花

米寿 札幌 小国 孝徳  
 国挙げて旗を掲げし海軍記念日米寿となりし吾のみ徳ぶ  
 仙台以北一山三文の裔の吾兎にも角にも米寿となりぬ  
 薩長に逆らひて曾祖父の兵挙げし時より政府を疎みつつけぬ  
 直系の吾に鎧兜の伝はるなし戌辰の役に失せしにやあらむ  
 亭々と聳えて風にさやぐ日を吾は見ざらむポブラの若木

早春 帯広 中野 知弘  
 枯れがれの尽きたるところ鮮黄の連翹れんせうみちて身をひき通る  
 この日頃吹く春風の涼しきに櫻の花は去りにけらずや  
 屋上に立てば遥けき平原に雪山風の街なみわたる  
 國道の喧騒さけて裏通り行けば盛りなる木蓮の庭  
 花はなく草色くささもなき早春はつとびの一日暮れたり湯豆腐の卓

北海道医報歌人会詠草



天才的技法 札幌 山口 康徳

明け方の夢 札幌 古屋 統

平和を 美唄 吉村 誠治

正体の不明 続く怪しひとピアノ前にし  
 天才的技法  
 あと肢にて直立すること二十秒観客ひまを意識し  
 パンダ愛嬌  
 積み重ね社会の歪ひずみ固まりてむごき仇なす罪なき人  
 温暖化さらに進まば地球上低き島国消え去る  
 恐怖  
 白煙をあげし噴火のおさまるや虚脱おそひし  
 観客のごと

思えるを犯しの所業と言う聖書夢の不倫は咎め給わず  
 衰えの進むひと頃妻ならぬ人にしたしむ夢多く見し  
 わが夢のページを披く術持たぬ妻にはよくぞ赦されて来し  
 醒める前夢に交わせし約束の覚えはなしと妻が打ち消す  
 明け方の夢に出し妻三十年老いて朝餉の卓に  
 対き合う

北朝鮮イランと続くウラン濃縮原爆持たざる  
 平和な国へ  
 大量の破壊兵器と騒がるる核兵器こそ人類の愚  
 地球への警告なりや続く地震戦争やめよ今からで良い  
 大地震二つ重なり大津波神の怒りと人類よ知れ  
 中東のイスラム圏の現状に民主主義には尚遠きさま